

250圓の50圓に對する歩合はいくらか、

(9)次の元利合計を求めよ

元金	100圓	1000圓	10圓
利率	年1割	年6厘	月1分
期間	1年	3年	6月
元利合計			

(10)某銀行の預金利率は日常1錢である金100圓を100日間預けて置けば元利合計いくらか

(11)或人銀行より日歩1錢5厘で金1000圓を借り80日分の利息を拂ふたとすれば其の利息はいくらか

(12)郵便貯金の利率が4分2厘とすれば10圓の1年間の利息はいくらか

公債株式の問題

55頁
57頁

(A) ○加減法の練習

○歩合に關する簡易なる計算

- 60錢 × 0.15
- 120錢 × 0.05
- 250錢 × 0.3
- 8圓 × 0.15
- 12圓 × 0.05
- 30圓 × 0.06
- 50圓 × 0.06
- 200圓 × 0.05
- 200圓 × 0.06
- 500圓 × 0.06
- 300圓 × $\frac{2}{100}$
- 4000圓 × $\frac{6}{1000}$

(B) (1)五分利公債證書額面百圓のも

の一枚を有する人は1ヶ年の利子何程か、

(2)國庫債券 200圓を有する人の毎回受取る利子はいくらか (利率5分年二回)

(3)東京市公債1000圓を所有する人は毎年利子何程を得るか (利率年6分)

(5)日本銀行株 1株の金額は二百圓である配當率年1割分なるときは此株1株有する人が1年に受くる配當金はいくらか

(5)日本郵船株 2株持つ人は半年毎

に何程の配當金を得るか、

(1株50圓配當率年1割)

(6)神戸市公債より毎回利子1350錢を得る人の公債高はいくらか、

(利率年6分半年毎に拂渡さる)

(7)大阪市築港公年より2ヶ年に利子60圓を得る人の所有高はいくらか、(利率年6分)

(8)第一銀行株を所有する人がある或決算期に年1割に當る所の配當金5圓を得たしすれば此人の所有株數はいくらか

(1株50圓年二回決算)

(9)東京瓦斯株10株の株主或決算期

$$\begin{aligned} & 800\text{圓} \times \frac{50}{100} \\ & 1500\text{圓} \times \frac{60}{1000} \\ & 140\text{錢} \div 0.07 \\ & 250\text{錢} \div 0.05 \\ & 20\text{圓} \div 0.04 \\ & 30\text{圓} \div 0.06 \\ & 60\text{圓} \div \frac{3}{100} \\ & 40\text{圓} \div \frac{2}{1000} \\ & 50\text{圓} \div \frac{5}{1000} \\ & 60\text{圓} \div \frac{6}{1000} \end{aligned}$$

に配當金25圓を得たとすれば配當の歩合は年何程か

(1株50圓半年毎に決算)

(10)額面100圓につき95圓の割で公債證書額面1000圓を買ふには金幾何を要するか

(11)額面100圓に付90圓の割で

540圓出して買った公債の額面高はいくらか

(12)一株の時價30圓の株を10株賣ら其代りに1株60圓の株を買へば幾株買ひ得るか

(13)株を額面100圓につき90圓の割で買ひ95圓の割で賣れば額面

1000圓では何程儲かるか。
 (14) 4分利公債を額面 100圓につき
 90圓の相場で買へば利廻いくら
 となるか。

雑問 58頁 61頁	(A) ○加減乗除の復習			(B) (1) 次の比の値を求めよ $3 : 3\frac{1}{2}$ $0.3 : 15$ $8 : 5$ 6錢 : 4錢 14間 : 42間 1米 : 1間 (2) 1ダマ 24錢の鉛筆を8本買へば 代金いくらか (3) 1晝夜に4分進む時計は 6時間に はいくら進むか (4) 籠の中に梨とりんごと合せて 100個ある其割合は梨3りんご2
	79+58	68+76	67+46	
	39+65	38+73	78+47	
	83-46	90-46	82-78	
	71-28	66-37	65-48	
	530+170	420+380		
	380+540	560+260		
	500-190	600+230		
	800-350	700-250		
	28×6	18×8	25×4	

	33×5	42×3	45×2	の割合である各いくらか (5) 5人で 30日間に成仕事のまじし たとすれば今 5人を増して残業 をすれば何日で終るか (6) 100圓を2ヶ月貸したと同じ利息 を得んには 50圓を幾月貸せばよ いか、但し利率は同じ (7) 2000㊦の空気がある其の中の二 三割分は酸素であるとすれば何 ㊦か、 (8) 或學校の生徒總數は 800人で女 は 360人であるとすれば女は全 生徒數に對し幾割に當るか (9) 定價の九割で買ひ其の代金よりし
	90÷5	100÷25	72÷6	
	90÷6	490÷9	560÷7	
	20×40	30×50	60×50	
	70×50	80×40	90×60	
	200÷50	350÷70	320÷80	
	1000÷50	3000÷60	4000÷80	
	7+15+8+24+6			
	35+9+23+6+14			
	7+19+8+36+50			
	100-25-6-13-9			
	300-70-30-20-50-80			
	96-7-15-23-14			
	0.6+0.5+0.4+0.8			

$0.7 + 0.6 + 0.5 + 0.3 + 0.4$
 $1.2 + 38 + 1.5 + 23$
 $2 - 0.02 - 0.05 - 0.04$
 $5 - 0.5 - 0.06 - 0.5 - 0.5$
 13×0.4
 46×0.2
 $12 \div 0.6$
 $36 \div 0.06$
 $26 + 0.7 \times 10$
 $550 \div 0.5 - 750$
 $80 \div 0.08 - 550$

て81錢を拂ふた品物がある其の
 定價はいくらか
 (10)或商人が資本金200圓で商賣を
 して60圓の利益を得たとすれば
 資本金に對する利益の歩合はい
 くらか
 (11)地價100圓の畑を有する人が地
 租を納めたる上縣税として地價
 の百分の三を納めたる税金の合計
 はいくらか
 (12)年500圓の收入ある教員は1年
 間にいくらの所得税を納むるか
 (13)元金200圓利率1割で3年間借れ
 ば利息はいくらか

第三學期

(14)或人月利1歩で6ヶ月間金を貸
 し元利合計 106圓を得たとすれ
 ば元金はいくらか
 (15)日歩1錢で金200圓を銀行に預
 けたとすれば50日間の利子い
 らとなるか
 (16)某會社の半季決算に於て配當
 歩合が5年 1割で配當金10圓を得
 たる人がある此人は幾株の株主
 であるか 但し1株は50圓である

復習

(A) (1)加減の復習

(B) (1)次の寄せ算を行へ

小数 及び 62頁 65頁	基数累加練習	219 + 392	169 + 277	258 + 465
	二位数の累加練習	357 + 265	529 + 373	279 + 458
	二位数の減法練習	668 + 176	267 + 649	339 + 265
	(2)乗除の復習	0.38 + 0.73	0.88 + 0.78	0.86 + 0.35
	二位数に基数を掛	0.25 + 0.15 + 0.15	0.21 + 0.012 + 0.08	
	くるもの	1.5 + 2.6 + 0.8	2.5 + 2.6 + 0.6 + 1.5	
	三位数に基数を掛	2.6 + 2.5 + 2.6	4.2 + 6.5 + 0.2 + 1.5	
	くるもの			
	二位数又は三位数			
	を基数で割るもの			
(2)次の引算を行へ				
	261 - 32	256 - 27	336 - 128	
	341 - 125	487 - 249	377 - 38	
	531 - 428	371 - 48	281 - 34	
	232 - 23	491 - 256	351 - 127	
	10 - 0.5	2.2 - 0.5	3.2 - 1.6	
	2 - 0.25	3 - 0.08	4 - 1.7	

(3)次の掛算を行へ

11 × 11	15 × 12	15 × 14
42 × 25	26 × 23	53 × 24
12 × 50	25 × 40	35 × 45
120 × 20	250 × 30	40 × 200
300 × 200	400 × 200	270 × 20
35 × 0.5	46 × 0.02	0.03 × 12
0.12 × 8	0.04 × 0.2	0.8 × 0.5
(4)次の割算を行へ		
121 ÷ 11	300 ÷ 15	165 ÷ 11
920 ÷ 46	169 ÷ 13	441 ÷ 21
6000 ÷ 2000	15000 ÷ 500	2 ÷ 0.2
44 ÷ 0.4	3.3 ÷ 0.03	5.5 ÷ 0.05
(5) $(14 \times 15) + (560 \div 14) - 200$		

$$20 - 5 \div 0.5 + 5 - 2 \times 0.5 \times 10$$

$$600 - 50 \times 2 - 60 \times 5 \div 3$$

$$(24 \times 8 + 880 \div 20) - 370$$

(6) 36より或数を引きたるに16残つたといふが或数とはいくらか

(7) 大小二数がある其の和は80であつて小なる数は35である大なる数はいくらか

(8) 一数があつて其れは25の5倍に當るとすればいくらの数か

(9) 大小二数があつて小の数は8であつて大の数を小の数で割ると9となる然らば大の数はいくらか

(10) 二つの数を掛算せたものは399で其一数は3である他の数はいくらか

諸数等	(A) (1) 加減の復習前に準ずるもの	(B) (1) 次の数を各諸等数に直せ
		<p>(11) 甲乙丙の三数がある其の和は 20 甲乙の和は 16 乙丙の和は 10 である三数各いくらであるか</p> <p>(12) 一升 14 錢の小豆 5 升の代金はいくらか 又 5 合の代金はいくらか</p> <p>(13) 1 ダム 3 圓のビール 2 本の價はいくらか</p> <p>(14) 牛肉 100 斤が 40 錢のものは 150 斤の代金いくらか</p> <p>(15) 或人馬 70 頭を 1 頭 30 圓づつで賣り其金で 1 頭 50 圓の牛を買つたら何頭買へるか</p> <p>(16) 男 4 人分と女 7 人分と其賃金同じである今女 1 人の賃金 20 錢とすれば男 1 人の賃金はいくらか</p>
		<p>127尺 333歩 3065歩</p> <p>三尺半</p>

(2) 次の数を各括弧内の單位の單名數に直せ

1里4町8間(間) 1町2段2畝10歩(歩)

1時10分3秒(秒) 7町12間(里)

7畝15歩(畝) 11時12分(時)

(3) 次の寄算を行へ

5町12間4尺+3町20間2尺

6町30間2尺+4町30間2尺

4里18町17間+5里18町43間

3町4段4畝15歩+4町3段5畝15歩

6時45分20秒+3時25分10秒

(4) 次の引算を行へ

4里30町15間-3里35町3間

5段3畝20歩-2畝25歩

66頁
71頁

(2) 乗除の復習

前に準ずるもの

○二位數に二位數を掛くると簡易なるもの

○二位數又は三位數を二位數で割ると簡易なるもの

(2) 次の数を各括弧内の單位の單名數に直せ

1里4町8間(間) 1町2段2畝10歩(歩)

1時10分3秒(秒) 7町12間(里)

7畝15歩(畝) 11時12分(時)

(3) 次の寄算を行へ

5町12間4尺+3町20間2尺

6町30間2尺+4町30間2尺

4里18町17間+5里18町43間

3町4段4畝15歩+4町3段5畝15歩

6時45分20秒+3時25分10秒

(4) 次の引算を行へ

4里30町15間-3里35町3間

5段3畝20歩-2畝25歩

4日8時20分-3日10時10分
6分12秒-5分20秒

(5) 次の掛算を行へ

1里5町15間×4 2町1段10歩×3

7町20間2尺×3 3町1段5畝×3

15分10秒×4 2日6時15分×4

(6) 次の割算を行へ

6里4町30間÷2 2町4段4畝÷3

8町5間2尺÷4 6町5段5畝÷5

7日2時20分÷2 4時30分3秒÷3

1里4町÷4町 3畝10歩÷20歩

6分40秒÷1分40秒

(7) 20里の所に行くに初日に6里12町行き二日目には6里28町行きたりとすれば三日目には何里

行けばよいか

- (8) 所有田地 6町7段2畝の内三分の一を賣拂へば
残りの田地はいくらか
- (9) 砂糖800匁を1斤入の袋に入れば幾袋出来る
か
- (10) 日曜の正午十二時から 金曜の午前八時まで
は何時間あるか
- (11) 1里40間をキロメートルに換算すればいくら
となるか
- (12) 9分9厘は幾類なるか又幾耗なるか
- (13) 90匁と16貫とは何いかが何程大なるか
- (14) 金1匁の價は5圓である 15グラムの價は何圓
か
- (15) 銀1匁を13錢とすれば45グラムある銀塊の價

はいくらか

- (16) 一匁を0.267匁とすれば 1匁は何匁か又1匁は
何匁か
- (17) 1ヤード27インチは幾メートルなるか
- (18) 1キロメートルは幾碼に當るか但し1碼を3尺
として計算すること
- (19) 1哩は1760碼である2哩は何碼か
- (20) 1ポンドを120匁とすれば3斤は何ポンドに當
るか
- (21) 1オンスを約7.5匁とすれば 10オンスは何匁
なるか
- (22) $10^{\circ}30'$ $1^{\circ}12'$ は各何秒か
- (23) $3600''$ $30^{\circ}5'$ は各度何分か
- (24) 次の計算を爲せ

	<p>四〇一</p> <p> $5^{\circ}3'10'' + 2^{\circ}5'30'' + 2^{\circ}2'20''$ $5^{\circ}3'10'' - 3^{\circ}2'20''$ $3^{\circ}4'30'' \times 2$ $3^{\circ}20'10'' \div 2$ $1^{\circ}14'10'' \times 5$ $3^{\circ}4'30'' \div 3$ (25) 一直角の $\frac{1}{6}$ は何度なるか 又 $\frac{1}{10}$ は何度か $\frac{1}{15}$ は何度か </p>
<p>求積の問題 72頁 73頁</p>	<p>(A) (1) 加減の復習 特に簡便法によるもの</p> <p>(B) (1) 矩形の土地がある其の縦は5間3尺で横は4間である面積は幾坪か (2) 底邊300種高さ100種なる三角形の板の面積は幾平方種なるか又幾平方米か (3) 27-ルは幾平方米か又幾坪か (4) 底邊8米高さ4米の平行四邊形の土地と上底3米下底7米高さ4米の梯形の土地とは面積に於</p>

	<p>ていくらの差あるか</p> <p>(5) 半径1碼の圓形の地は幾平方碼の面積か (6) 各稜の長さ9尺9寸の正方形の體積は幾立方尺なるか (7) 米櫃を作るに内法縦2尺横1尺5寸深1尺とすれば約何程の米が入られるか (1斗を約65立方寸として計算せよ) (8) 五角柱がある其の底面積は50平方尺で長さは2尺である體積は幾立方尺であるか (9) 直徑2寸で長さ5寸の圓柱の體積は幾立方寸か</p>
<p>分數 74頁 75頁 76頁</p>	<p>(A) (1) 乗除の復習 特に簡便法に依るもの、復習</p> <p>(B) (1) 次の分數を約せよ $\frac{15}{60}$ $\frac{20}{36}$ $\frac{18}{72}$ $\frac{25}{30}$ $\frac{9}{21}$ (2) 次の各組の分數を通分し且つこれを大小の順に云へ</p>

$$\left(\frac{2}{3} - \frac{3}{4} + \frac{7}{12}\right) \quad \left(\frac{5}{6} - \frac{3}{4} + \frac{11}{24}\right)$$

(3) 次の加法を行へ

$$\begin{aligned} \frac{1}{5} + \frac{3}{5} + \frac{2}{5} &= \frac{5}{5} + \frac{8}{5} + \frac{7}{5} \\ \frac{5}{8} + \frac{1}{4} + \frac{1}{2} &= \frac{4}{7} + \frac{5}{14} + \frac{3}{7} \\ \frac{1}{50} + \frac{9}{25} &= \frac{2}{9} + \frac{4}{3} + \frac{7}{18} \end{aligned}$$

(4) 次の減法を行へ

$$\begin{aligned} \frac{9}{16} - \frac{5}{16} &= 1 - \frac{9}{15} & 2 - \frac{15}{26} \\ \frac{7}{10} - \frac{4}{10} &= \frac{12}{9} - \frac{4}{9} - \frac{7}{9} - \frac{3}{9} & 1 - \frac{3}{5} - 1 - \frac{1}{5} \\ \frac{5}{8} - \frac{11}{24} &= \frac{7}{14} - \frac{9}{14} - \frac{5}{7} - \frac{2}{7} & 1 - \frac{1}{2} - \frac{3}{4} \end{aligned}$$

(5) 次の乗法を行へ

$$\begin{aligned} \frac{1}{2} \times \frac{2}{3} &= \frac{3}{7} \times \frac{1}{6} & 1 - \frac{1}{2} \times \frac{5}{10} \\ \frac{1}{2} \times \frac{2}{5} \times \frac{5}{10} &= \frac{2}{2} \times \frac{1}{2} \times \frac{3}{10} \end{aligned}$$

(6) 次の除法を行へ

$$\begin{aligned} 5 \div \frac{1}{2} &= \frac{1}{3} \div \frac{1}{5} & \frac{7}{10} \div \frac{3}{3} \\ \frac{1}{4} \div \frac{1}{2} &= \frac{1}{6} \div \frac{1}{19} & \frac{1}{6} \div \frac{1}{2} \div \frac{1}{3} \end{aligned}$$

(7) 次の計算を爲せ

$$\begin{aligned} \left(\frac{1}{2} + \frac{1}{5}\right) \times \frac{1}{3} &= \frac{4}{15} - \frac{7}{30} \div 20 \\ \frac{1}{5} \times \frac{3}{10} \times \frac{4}{15} + \frac{5}{125} &= \frac{2}{5} \times \frac{5}{8} - \frac{1}{5} \\ \frac{1}{10} \div \frac{1}{3} + \frac{8}{10} &= 2 - \frac{7}{15} \times \frac{2}{3} \end{aligned}$$

(8) 次の小数を分数に直せ

$$0.3 \quad 0.15 \quad 0.024 \quad 6.5 \quad 7.34$$

(9) 次の分数を小数に直せ

$$\frac{3}{6} \quad \frac{3}{15} \quad \frac{1}{4} \quad \frac{4}{5} \quad \frac{9}{10} \quad \frac{47}{100}$$

(10) 金300圓の $\frac{1}{6}$ は何圓か

	<p style="text-align: center;">EOK</p> <p>(11) 700人の$\frac{5}{70}$は何人か (12) 所持金の$\frac{3}{5}$を費したが尙20錢残つて居るとすれば所持金はいくらかであつたか (13) 或仕事をするに兄は3日を要し弟は4日を要すれば兄弟二人で一日に其の幾分を成し得るか又全く仕上ぐるには幾日を要するか (14) ニツの分數の和は2であつて其の差は$\frac{1}{2}$である各いくらか</p>
<p>比の問題 77頁 78頁</p>	<p>(A) (1) 加減乗除混題の復習</p> <p>(B) (1) 4日間に3圓の貨錢を得べき職人が12日間働けば貨錢何程を得るか (2) 毎日6里づゝ行けば5日で到着する距離を3日で到着せんとすれば毎日何里づゝ歩めばよいか</p>

	<p>(3) 毎日1升5合づゝ食へば20日間支ふる米がある毎日2升づゝ食へば何日で盡さるか (4) 一人の子供に10枚づゝ與ふれば30人に與ふることが出来る紙がある之を50人に分ち與へんとすれば一人に何枚づゝ與ふればよいか (5) 金200圓を三人に分くるに其の割合甲は5. 乙は3. 丙は2. である各何圓づゝいか (6) 攝氏寒暖計20度の昇りは華氏何度の昇りに當るか又華氏18度の降は攝氏何度の降に當るか (7) 攝氏の寒暖計で溫度15° 20° 40° 80° は各華氏の何度に當るか (8) 華氏で溫度50° 68° 95° 77° は各攝氏の何度に當るか</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(A) (1) 加減乗除混題の
復習

歩合の問題
79頁
81頁

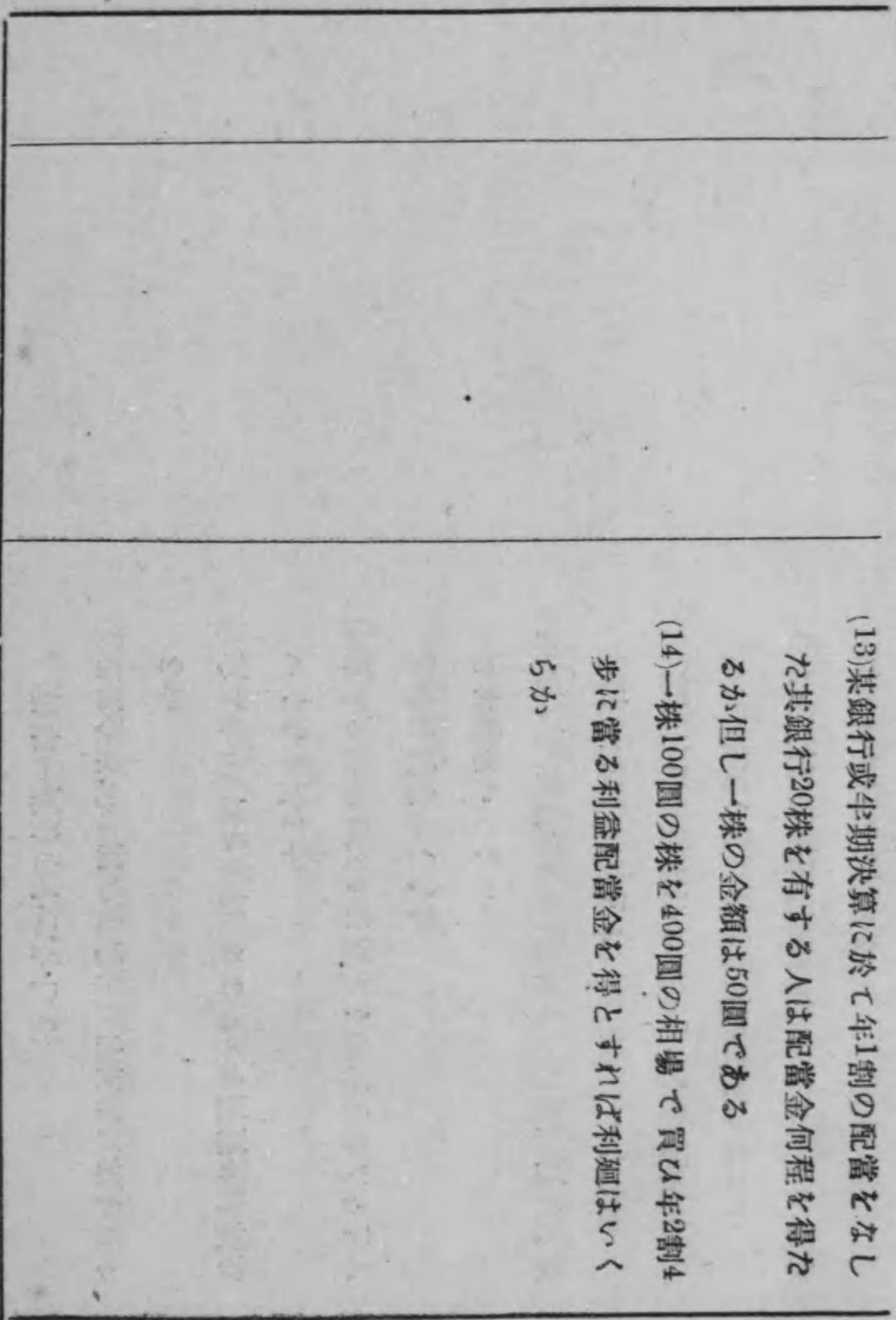
- (B) (1) 或女學校が昨年入學を許可したるは 120名であつて入學志願者の數は 400名であつた入學者は志願者の何割に當るか、
- (2) 或戦争で戦死者の數を見るに全體の 1割であつた全體1500人とすれば戦死者幾人か、
- (3) 定價10圓のものを1割2分引で買へば代金はいくらか
- (4) 地價300圓の宅地を有する人は1年にいくらもの地租を納むるか、
- (5) 1ヶ年の收入6萬圓ある某合名會社の納むべき所得税はいくらか
(稅率千分の百として)
- (6) 某卸賣商一箇年の賣上高 3萬圓に對し營業税いくらを納むべきか

(稅率一萬分の十二として)

- (7) 記載金高2000圓の證書には印紙代何程を要するか、
- (8) 或人金100圓を年利9歩で 2ヶ年間貸せば利息いくらを得るか、
- (9) 或人金10圓を 6ヶ月間借り 60錢を拂ふたとしてれば月利率いくらか
又年利率いくらか、
- (10) 成人金者千圓を年利1割で 1.5年間貸し元利合計115圓を得たとすれば元金はいくらか、
- (11) 某銀行預金利率日歩 1錢とすれば金300圓を 100日間預くれば元利合計いくらとなるか、
- (12) 六分利公債證書額面500圓を有する人は毎半期に利子何程を得るか、

(13) 某銀行或半期決算に於て年1割の配當をなした其銀行20株を有する人は配當金何程を得たるか、但し一株の金額は50圓である

(14) 一株100圓の株を400圓の相場で買ひ年2割4歩に當る利益配當金を得とすれば利廻はいくらか



大正七年壹月參拾日印刷
 大正七年貳月貳日發行

暗算教材及教法實際
 正價金壹圓八拾錢



著者 水上徳次郎

發行者 阪本眞三

印刷者 青柳十一郎

印刷所 株式會社 秀英舎第一工場

發兌

東京市神田區表神保町七番地
 振替貯金口座東京八七二番

大同館

東京帝國大學文科助教 文學士 宇野哲人先生新著

(賣行激甚)

支那哲學史講話

菊判上製美本全壹冊
紙數四百五拾頁箱入
正價金壹圓六拾錢
郵稅金拾貳錢

好評

本書は上古より清末に至る迄の支那思想の概要を極めて平易簡明に叙述して最もよく要領を盡くせるものなり。特に清朝に於ける學術思想の變遷が如何に暗々裏に革命を惹起するに至りしか。支那の新人の思想は如何なる傾向を帯ぶるか。著者の最も留意せし所にして從來世に行はれたる支那哲學史の缺陷は本書に依て補足せられて亦遺憾なし。本書は又附録として一々原文を掲げて直ちに堂奥を窺ふの便に供し亦著者の議論の根據あるを知らしむ。要するに初學者にも専門家にも座右に缺くべからざる絶好の新著なり。

東京朝日新聞批評

上略著者は夙に東洋哲學を専攻として支那に遊ぶこと年久しく其造詣はかるべからざるものあり本書は支那三千年來の思想を一貫して縱横横説したる支那の儒教史にして又道教史とも見るべく最も蕪蓋を傾けたる大著述にして支那と形而上密接なる關係を有する我國民の閉却すべからざる良書なり。

東京日々新聞批評

唐虞三代の太古より共和思想勃興の今日迄支那大陸に發達せる哲學の一般を系統的に講述せるものなり、著者は支那哲學の攻めとして暫く支那にあり既に文科大學に斯學を講ずる人だけありて簡明直截にして理解に困難ならず、全く新しき川意の下に成されたる書と云ふべし、支那問題の解決には支那を知るを要す、支那人を知るには支那に發達せる思想を知らざるべからず本書は此點に於て學者よりも寧ろ政治家經世家の一讀を要せん。

本書は文部省檢定受檢者必讀の書として歡迎せられ増刷亦盡きんとす

大 同 館 發 行 圖 書 目 録

明治教育社編輯部編纂

(熱狂的大歡迎)

最新國民道德要領

四六判上製美本全壹冊
紙數約參百餘頁
正價壹圓貳拾錢
郵稅金八錢

文檢規則改正の結果本年度より新に修身科以外の文檢受檢者に國民道德要領の試験を課せらるる事となるや。我社に其參考書を問合はさるゝ方多く中にも適切なる參考書を編纂すべきことを慫慂し來るゝ向も不尠仍て我社は在京の文檢修身科受檢者數氏を擧げ囑するに本書の編纂を以てす。こゝに於てこれ等諸氏は數回の會合を重ね編纂方針より同書の内容につきて研究協議を盡し遂に本書を成すに至れり。こゝに由來を擧げて之れを文檢受檢者の座右にすゝむ。

本書

特色

- 一 合格者の經驗を基礎として可成受檢者の便利を圖りたる事
- 一 文章を平易にし勉めて大意を把握し得る様記述したる事
- 一 本文の外に參考として試験委員は勿論其他の倫理學者の説を必要なる限り悉く網羅したる事
- 一 各章毎に總括して復習に便ならしめたる事
- 一 各科の終りに試験問題の解答を略記したる事
- 一 類似問題を掲げて受檢者の便宜を圖りたる事
- 一 受檢に關する注意を掲げたる事

六版七版 八版出 盡く賣切

東京市神保町七番地 大 同 館 發 賣 振替東京八七番 貯金七七番 口座番

小學校珠算教授
新大明星

第四版

東京高等師範學校訓導 岡 千賀衛先生新著 (最新版)

珠算教授法精義

菊判最上製美本全壹冊 正價金壹圓六拾錢 郵税金拾二錢

古き算盤によりて新しき珠算を行はんとは經濟膨脹に伴ふ現代の聲なり。和算の城壁を破壊して暗算筆算と合體したる實用算術を建設せんとは教育の進歩に伴ふ現時の叫なり。かくて學校算術は筆算專用たる可らず。珠算教授亦算盤專用に甘んず能はざらんとす。若しそれ本書によつて是等の難問に答へ實地教授上何等かの覺醒を與ふるを得ば豈獨り弊館の光榮のみならんや。

教育學術界評：珠算を日常生活必要なるものと信じたが、兎角筆算教授に比して輕視するの傾向あるは、畢竟が教材及教法の研究の不足なるに由るなるべし、本書は著者多年研究の結果を發表したるものにて、主として珠算教授の原理と實際の應用とを詳説したるのみならず、問々算術教授全般に涉りて参考とすべき所少なからず、而かも所説穩健にして、珠算教授改良家と稱する輩の如く徒に、奇を喜び、變を術ふが如きことなきは、著者の研究の眞率なるを證するに足るべし、小學校教員諸氏熟讀玩味せば、益得る所頗大なるべし。

本書の内容目次

前編 總論

第一章 序論
一、珠算教授刷新の必要。二、本書の主張。

第二章 珠算教授の目的
一、珠算の性質。二、計算法の發達。三、計算機の工夫。四、實用上各種計算法の應用。五、珠算の長所。六、珠算の短所。

第三章 珠算教授の變遷
一、珠算の傳來。二、明治以前の有様。三、明治時代の珠算教授。四、現代の珠算教授の目的。五、珠算の地位。六、珠算の實用。七、土地の情況とは何ぞや。八、珠算教授の任務。九、實用計算と珠算教授。十、算術教授全般の上より見たる珠算教授。十一、算術教授の地位。十二、算術教授の無定見。十三、教材研究の缺陥。十四、算術教授の地位。

第四章 教材の選定
一、明治以前。二、明治時代。三、實用計算練習上の價値。四、基礎教材の材料。五、兒童の心理。六、算術教材との關係。七、算術教材の資格。八、算術教材の價値。九、算術教材の地位。十、算術教材の選定。十一、算術教材の分類。十二、算術教材の配列。十三、算術教材の補充。十四、算術教材の改訂。十五、算術教材の改訂の必要。十六、算術教材の改訂の標準。十七、算術教材の改訂の手續。十八、算術教材の改訂の注意。十九、算術教材の改訂の結論。二十、算術教材の改訂の附録。

第五章 算術教材の分類
一、算術教材の分類の標準。二、算術教材の分類の標準。三、算術教材の分類の標準。四、算術教材の分類の標準。五、算術教材の分類の標準。六、算術教材の分類の標準。七、算術教材の分類の標準。八、算術教材の分類の標準。九、算術教材の分類の標準。十、算術教材の分類の標準。十一、算術教材の分類の標準。十二、算術教材の分類の標準。十三、算術教材の分類の標準。十四、算術教材の分類の標準。十五、算術教材の分類の標準。十六、算術教材の分類の標準。十七、算術教材の分類の標準。十八、算術教材の分類の標準。十九、算術教材の分類の標準。二十、算術教材の分類の標準。

第六章 算術教材の配列
一、算術教材の配列の標準。二、算術教材の配列の標準。三、算術教材の配列の標準。四、算術教材の配列の標準。五、算術教材の配列の標準。六、算術教材の配列の標準。七、算術教材の配列の標準。八、算術教材の配列の標準。九、算術教材の配列の標準。十、算術教材の配列の標準。十一、算術教材の配列の標準。十二、算術教材の配列の標準。十三、算術教材の配列の標準。十四、算術教材の配列の標準。十五、算術教材の配列の標準。十六、算術教材の配列の標準。十七、算術教材の配列の標準。十八、算術教材の配列の標準。十九、算術教材の配列の標準。二十、算術教材の配列の標準。

第七章 算術教材の補充
一、算術教材の補充の標準。二、算術教材の補充の標準。三、算術教材の補充の標準。四、算術教材の補充の標準。五、算術教材の補充の標準。六、算術教材の補充の標準。七、算術教材の補充の標準。八、算術教材の補充の標準。九、算術教材の補充の標準。十、算術教材の補充の標準。十一、算術教材の補充の標準。十二、算術教材の補充の標準。十三、算術教材の補充の標準。十四、算術教材の補充の標準。十五、算術教材の補充の標準。十六、算術教材の補充の標準。十七、算術教材の補充の標準。十八、算術教材の補充の標準。十九、算術教材の補充の標準。二十、算術教材の補充の標準。

第八章 算術教材の改訂
一、算術教材の改訂の標準。二、算術教材の改訂の標準。三、算術教材の改訂の標準。四、算術教材の改訂の標準。五、算術教材の改訂の標準。六、算術教材の改訂の標準。七、算術教材の改訂の標準。八、算術教材の改訂の標準。九、算術教材の改訂の標準。十、算術教材の改訂の標準。十一、算術教材の改訂の標準。十二、算術教材の改訂の標準。十三、算術教材の改訂の標準。十四、算術教材の改訂の標準。十五、算術教材の改訂の標準。十六、算術教材の改訂の標準。十七、算術教材の改訂の標準。十八、算術教材の改訂の標準。十九、算術教材の改訂の標準。二十、算術教材の改訂の標準。

後編 各論

第一章 算術の基礎
一、算術の基礎の標準。二、算術の基礎の標準。三、算術の基礎の標準。四、算術の基礎の標準。五、算術の基礎の標準。六、算術の基礎の標準。七、算術の基礎の標準。八、算術の基礎の標準。九、算術の基礎の標準。十、算術の基礎の標準。十一、算術の基礎の標準。十二、算術の基礎の標準。十三、算術の基礎の標準。十四、算術の基礎の標準。十五、算術の基礎の標準。十六、算術の基礎の標準。十七、算術の基礎の標準。十八、算術の基礎の標準。十九、算術の基礎の標準。二十、算術の基礎の標準。

第二章 算術の應用
一、算術の應用の標準。二、算術の應用の標準。三、算術の應用の標準。四、算術の應用の標準。五、算術の應用の標準。六、算術の應用の標準。七、算術の應用の標準。八、算術の應用の標準。九、算術の應用の標準。十、算術の應用の標準。十一、算術の應用の標準。十二、算術の應用の標準。十三、算術の應用の標準。十四、算術の應用の標準。十五、算術の應用の標準。十六、算術の應用の標準。十七、算術の應用の標準。十八、算術の應用の標準。十九、算術の應用の標準。二十、算術の應用の標準。

第三章 算術の練習
一、算術の練習の標準。二、算術の練習の標準。三、算術の練習の標準。四、算術の練習の標準。五、算術の練習の標準。六、算術の練習の標準。七、算術の練習の標準。八、算術の練習の標準。九、算術の練習の標準。十、算術の練習の標準。十一、算術の練習の標準。十二、算術の練習の標準。十三、算術の練習の標準。十四、算術の練習の標準。十五、算術の練習の標準。十六、算術の練習の標準。十七、算術の練習の標準。十八、算術の練習の標準。十九、算術の練習の標準。二十、算術の練習の標準。

第四章 算術の試験
一、算術の試験の標準。二、算術の試験の標準。三、算術の試験の標準。四、算術の試験の標準。五、算術の試験の標準。六、算術の試験の標準。七、算術の試験の標準。八、算術の試験の標準。九、算術の試験の標準。十、算術の試験の標準。十一、算術の試験の標準。十二、算術の試験の標準。十三、算術の試験の標準。十四、算術の試験の標準。十五、算術の試験の標準。十六、算術の試験の標準。十七、算術の試験の標準。十八、算術の試験の標準。十九、算術の試験の標準。二十、算術の試験の標準。

第五章 算術の発展
一、算術の発展の標準。二、算術の発展の標準。三、算術の発展の標準。四、算術の発展の標準。五、算術の発展の標準。六、算術の発展の標準。七、算術の発展の標準。八、算術の発展の標準。九、算術の発展の標準。十、算術の発展の標準。十一、算術の発展の標準。十二、算術の発展の標準。十三、算術の発展の標準。十四、算術の発展の標準。十五、算術の発展の標準。十六、算術の発展の標準。十七、算術の発展の標準。十八、算術の発展の標準。十九、算術の発展の標準。二十、算術の発展の標準。

東京市神保町七丁目 大館發行所 振替貯金口座 東京八七番

東京市神保町七丁目 大館發行所 振替貯金口座 東京八七番

小學校必備之良書

◎教授法研究會編纂◎ (最新刊)

國定準據 珠算教授書

菊判洋裝 全壹冊 正金六拾五錢 郵稅八錢

本書は東京高等師範學校内の教授法の研究會が多年の實驗研究に成れるものにして編者が苦心獨創計算習熟の簡法を明示せるものなり。教材に於ける基本材料主要材料の如き教法に於ける基礎練習看取計算複式教授の如き新界未だ之れを聴かざるの研究なり。況んや其教材の用意教法の叙述實に周到を極め珠算教授界空前の名著なりとの妙評噴々たり乞ふ一日も早く本書を實際に應用せられんことを…… (大好評三版出來……)

◎大川義行先生著◎ (好評噴々)

教師の人格 實驗教授術

四六判洋裝 全壹冊 正金五拾五錢 郵稅六錢

本書は普通の教授法とは全く其の態度を異にして眞の教授は教授者の人格を中心とする意味なり立論し本論に入りては世間一般の書に論じない所の緊要問題を拉し來り所謂教授上の實地の働き即ち術と云ふやうな人格の力を論じ進んで教授術の蘊奥は那邊にあるか等の大問題を著者が實驗研究の結果教授界に發表せるもの從來多くの著書が教材の研究教案の準備等に偏した缺點を補ふべき有益なる良書なり…… (國民新聞評)……

發行所 東京市神田區表保町六 大館同 振替貯金口座番七

—(色特の書本)—

最新刊

文部省檢定 受驗用 東洋通史

菊判最上製美本全壹冊紙數九百餘頁 正價金貳圓八拾錢 郵稅二十錢

◎最新最詳著者多年苦心に成れる東洋史!

東京高等師範學校教授 中村久四郎先生 高橋與惣先生新著

本書の組織は現今中等學校の教授細目を適宜配合して四編六拾五章に分ち著者多年の實地的經驗を基礎とせる獨創の排案に據り上下五千餘年に亘れる諸民族の盛衰興亡より政治・風俗・學術・文藝・宗教・制度の一切を網羅し東洋史實を盡く有機的連絡の下に最も平易正確懇切に通説せりそして從來の東洋史の最大缺點たる記述の無味乾燥及び繁雜に過ぎずば簡易に失せる缺點・地名人名の難讀・官職の難解等を補ひし外古今東西史學者の披擲せる學說の穩健なるものは努めて之を採録し一々出所出典を明示して研究者の便に資せり。又文部省檢定試驗問題の第壹回より第拾回に至る迄の分を盡く明瞭に解答し之を本文の間に分載し以て受驗者に一大秘庫を提供せり。要するに本書は文檢受驗用の名を冠すと雖も一切の史實を通説せるは勿論古來日支兩國の關係殊に最近世東洋外交史上の事件人物を詳説したれば實に中等教員小學教師の教授參考及文檢受驗者の一大秘庫たるのみならず史學研究者世の讀者も亦座右に備へて大に便益なかるべからず。

東京市神田區表保町七 大館同發行 振替貯金口座番七

((明文の大轉廻期の新道徳の眞髓))

●稻毛詛風先生新著●

新刊發賣

父と子

文明の大轉廻期に際して我が國民道徳も亦革新の必要を感じ今や義務本位利己主義より責任本位人道主義に移らんとす。著者此新潮の先頭に立ち在來の「孝道」に對して新に「父道」の價値を立説高調せんとして公にせるものは本書なり。題して「父と子」といふと雖も主として「父」の子に對する道を説けるものにして所謂「父道論」なり。而して本書の特色は單に「父道」を理論的見地より取扱へるのみならず自ら最愛の子を失へる著者の悲痛なる經驗より體得せる實感と東西古今の文學上に現はれたる幾多の興味深き具體的事實とを双脚として理論と實際との兩方面より「父道」の全體を闡明せる點に於て讀者に與ふる教訓と感銘との甚深なることに存す。随つて本書は子を持つるものに取りては初めて父たる道を理解し得べく。子を失へるものは又之によりて無上の慰安を受くべし。人の父母たるものは勿論苟くも倫理教育に携はる士女は必ず一本を繕いて新道徳の眞髓を會得するを要す。敢て焉むる所以也。

四版全
六册全
最上製
五百頁
本頁拾
正價金
壹圓貳拾錢
郵稅八錢

東京市神保町七丁目田區
大田同發行
東京市神保町七丁目田區
大田同發行

文部省通俗教育調査會認定濟

東京帝國大學文學科助教授
文學士
宇野哲人氏著
支那文明記
四六判上製美本寫眞版入
正價金壹圓四拾錢郵稅八錢

日本人は支那を知らなければならぬ支那を知るに云ふ事は單に東洋の一角を解するといふに止まらず東洋全體の消長を知ると云ふ事になる實に支那は未知數である支那の如何によつて世界の平和が何うなるか闡り知る事が出來ない本書著者は文部省の命で留學して長らく支那に遊び支那をよく理解した人だ其の人の支那全地に亘つての人情風俗習慣名所舊蹟の話聞くのは實に我々日本人に取つて非常に有益な事である目下は日本に取つては大の關係ある彼地の事情を精細に知つて居なければならぬ時機だ本書の如きを讀むのは日本人の權利であり且つ義務である

東京
大田同發行

●小學算術教授界の新燈明？

福岡縣小倉師範學校 附屬小學校編纂

實地活用

を立としたる

國定算術書 各題目の研究

實際的研究

▲菊判上製美本 全壹冊 正價金壹圓卅五錢 郵税金八錢

好評 五版

本書の使命 本書は小倉師範學校附屬小學校に於て特設せられたる算術科研究部が斯界の新潮を汲み實驗的研究の結果に基き五拾餘回の調査を重ね國定算術書の各題目に就き(一)主眼(二)教授要項(三)取扱注意の各項に分ち審議立案せられたるものにして所論痛快懇切以て教案編別實際教授の指南車となり。實に滿天下の實際家をして算術教授難の嘆聲を閉塞せしむ。自信と抱負とを有するものなり、各學校必備の要書は之れ。
(本科成績の不良に苦まるゝ人の最大福音)

東京市神田區
大田同館發行
振替東京八七七番

●文部省通俗教育圖書認定？

東京青山學院教授井原儀先生新著 (好評激甚)

地學 地熱の作用 講話

▼菊版最上製美本全壹冊 正價壹圓參拾錢 郵稅拾貳錢

近時天變地異頻りに臻りて伊太利の震災・櫻島の活動等を傳へ、轉た世人をして朝に紅顏たるも夕に白骨となるの身を想はしむ。況んや世界の大火山國且つ大地震國に生活する我が國民に於てをや。かくて吾人は朝一期に火山地震等の研究を忽にすべからざる現狀に迫まりぬ。實に本書は、地球と諸天體との關係、地熱及びこれに因りて生ずる土地の昇降・火山・地震・温泉等に關する事項を細く洩さず、且つ通俗的に解釋したるものにして、地熱に關する書のオソリチナリなり。我が國民よ、宜しくこれに據りて不明の災害を防ぎ、或は適當なる温泉を選びて、不治の病を醫し、以て將來の幸福を求めよ。
東京朝日新聞評：第一編にて太陽系の略説、星雲の變質より地球内部の狀態を概説し第二編にて海陸の生成、地熱の昇降より進んで火山に關する詳論に入り更に噴氣孔並に温泉、噴泉及び地震に關する仔細の説明に及ぶ由來地震國にして温泉國たる本邦に於て地熱學の研究の如き最も學者の興味を惹くべきものにして却て左したる注意を促さず地熱に關する著書の未だ全世に出づるものなかりしに寧ろ不思議といふべし本書の出でたる醫學上の知識普及に關して最も力あるべきことは疑を容れず文筆を口語體にして頗る解し易し。

最新刊

東京市神田區 大田同館發行 振替東京八七七番 座番

紐育大學教育學教授
早稻田大學教授
米國教育學博士

ホーン博士原著
中桐確太郎
荒川哲二郎共譯

（好評激甚）

最新刊 新理想主義の教育

著者ホーン博士は新進有爲已に覇を教育學界に唱へつゝある學者にして本書は其最も得意の著述なり内容は遺傳と環境と意志と三者を集めて教育力の三要素となし從來閉却せられたる教育の根本原理を闡明せり。苟くも教育に志あるの士一本を求めて其の内容の如何を審かにする所なかるべからず。

第一章 人間養成に於ける教育の問題
 人間作出は永劫の事業……自己改良の夢……智識と生命の利用……人間作出の諸勢力……此の問題の偉大

第二章 遺傳及教育
 人生に於ける遺傳の地位……生物學の證據……遺傳の法則……知性又徳性の相續……親族繁殖……遺傳の漸次顯現……遺傳としての能力……進歩に於ける遺傳の功用……教育と遺傳の關係……進歩に於ける結婚試驗……兒童の各個研究……婦人の權利……胎教的感化……世界的平和

第三章 環境及教育
 環境の性質……環境の一般影響……環境の及ぼす有機體の變化……物理的環境の影響……壓迫の效果……家庭學校及社會……地理と人類……社會的環境の影響……家

第四章 意志及教育
 意志の意義……社會的對個人的……原始民族……東洋民族……西洋民族……個人に對する近代の評價……文藝復興……無政府主義と社會主義……個人主義の將來……個人性認識の要綱……意志教育の目的……意志教育の諸原理

第五章 人間作成の哲學
 哲學の性質及方法……哲學の種々型……如何に人間は進みつゝあるか……如何に人類は進歩し得べきか……進歩の性質人間作出力の哲理

四六判上製美本
紙數約四百頁
正 八拾錢
郵税金八錢

振替 貯金 口座
東京 七八七番
大館發行行

東京市神田區
表保町七番地

—（自我論の論妹姉の）—

好評 改訂 再版 人格の力

東京帝國大學 文學士 紀平正美先生新著（好評激甚）
 文科大學講師

本書は今より十一年前に一度江湖に愛讀を得たものであるが、其後久しく絶版せられてゐた。然るに昨年末に其姉妹編たる『自我論』を出版したに就て再び讀者からの要求が出たので、同書の出版者からして再び世に出る事になつたのである。然し十一年の間に社會の事情も非常に變化した。自分の思想も亦多少發展してゐるのであるから、其の儘での再勤は到底許すことが出来ない。それで全部書き改めて自分の責任を新たにしたのである。もと四拾錢の定價のものが壹圓になつた。内容にそれだけの差があるか否かは讀者の判定に待つべきであるが、自分からは時代の推移と諦められん事を願ふのである。（著者識）

四六判上製美本
全壹冊四百五十五頁
正 壹圓
郵税金八錢

振替 貯金 口座
東京 七八七番
大館發行行

東京市神田區
表保町七番地

●明治教育社編輯部編纂●

(好評賣行激甚)

文檢 受驗用 教育大意

—四六判最上製美本全壹册四百卅頁 正價壹圓貳拾錢 郵税金八錢—

□本書は「國民道德要領」の姉妹篇にして本社顧問文檢合格者數氏に圖り特に合格者の秀才に執筆を依頼したるものなり。其特色は

□合格者の經驗を基礎として編纂したる事

□内容豊富にして且つ受驗者の爲に都合のよき様に記述したる事

□檢定試験委員の説を隨所に擧げたる事

□問題解答を掲げ且つ類似問題を多く載せたる事

□文章の平易親切なる事等なり。

最新版

類書あり 御注文の節は 大同館の發行と 必ず御申添へ下され度願上候

東京市神田區表神保町七番地 ■ 大同館發行 ■ 振替貯金口座 東京八七番

●●●[次目内容=意大育教]●●●

第一章 緒論	第一節 教育大意の範圍	第一節 教育時期の區分	第七節 教授上の實際問題
第二節 教育大意と教育學との關係	第二節 個人社會國家	第二節 心と腦	第六章 訓練論
第三節 教育の理論實際	第三節 現在及び未來	第三節 意識注意及び興味	第一節 訓練の意義及び目的
第四節 教育の意義	第四節 意力主義	第四節 知覺及び觀念	第二節 習慣と自治
第五節 教育の必要及可能	第五節 教育の特殊目的	第五節 記憶	第三節 訓練の主義
第六節 教育の效果及限界	第二章 目的論	第六節 想像及び聯想	第四節 訓練の手段
第一節 教育の目的概説	第一節 教育の目的概説	第七節 思考	第五節 訓練の場所
第二節 個人社會國家	第二節 個人社會國家	第八節 感情	第六節 訓練の機會
第三節 現在及び未來	第三節 現在及び未來	第九節 意志及び習慣	第七節 操行査定
第四節 意力主義	第四節 意力主義	第十節 自我及個性	第八節 身體的訓練
第五節 教育の特殊目的	第三章 主體論	第十一節 意志及び習慣	第七章 學校論
第一節 教育者の力	第一節 教育者の力	第十二節 自我及個性	第一節 學校の意義
第二節 教育者の人格	第二節 教育者の人格	第五章 教授論	第二節 學校の種類
第三節 教育者の修養	第三節 教育者の修養	第一節 教授の意義及び目的	附錄
第四節 尊敬すべき過去の教育者	第四節 尊敬すべき過去の教育者	第二節 普通教育に於ける教科課程案	教育大意問題解答
第四章 客體論(生徒論)	第四章 客體論(生徒論)	第三節 普通教育の教科及び其職能	文檢諸規則
		第四節 教材の排列及び統合	教員免許令
		第五節 教授の段階	教員檢定に関する規定
		第六節 教授の様式	內容索引

東京市神田區表神保町七番地 ■ 大同館發行 ■ 振替貯金口座 東京八七番

■ 小學校教員 中等教員 文部省檢定受験準備書 ■

大分縣立中學校教諭 宗末治 著

分類算術解法の研究

判紙金 八錢 製上參 全百拾 壹頁拾 冊價錢 錢 六

本書編纂の目的は主として中等教員小學校教員の檢定試験を受けんとする者の爲めに自習用書として編纂せり内容は比較的少數の問題の解き方を正確に了解せんとするに有り其特色は

(一) 練習問題は最近廿ヶ年に亘れる諸官立學校入學試験問題文檢試験問題等の内より六百を精撰せる事

(二) 問題分類の方法斬新にして其排列を階段的に圓周的にならしめたる事其梗概は直接解法—四則比例等の簡單なる問題につきて豫備的練習を試みんとす。

間接解法—更に進んで稍高尚なる問題を解かんとするものにして本書の骨子の部分なり。

一般解折法—四則算法の結合より見たる分類及此の分解綜合による分類
特殊解折法—問題の特種なる性質による分類
難問解法—歩合算・利息算・求積の全般に亘りて應用的解法を試みんとす。

難問數解法—稍高尚なる問題につき一問毎に二様以上の解答を試みんとす。

(三) 考へ方を暗示的に指示し簡明なる答案記載の形式を知らしめたること
(四) 各種の表を卷末に載せ直觀記憶に便ならしめたること

—(色 特 の 書 本)—

迎 歡 的 狂 熱

大 同 館 發 行

振替 東京 八七 番 口 座

東京 市 神 保 町 七 番 地 區

2634
49

2

終

